



# 東京YMCA

2010 1/2月号

発行所 東京キリスト教育年會 発行人 廣田光司  
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

### 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

## 二〇一〇年の初めに

理事長  
茅野徹郎



新しい年を迎え、皆さんそれぞれ心新たに決意や抱負をお持ちのことだろう。東京YMCAは今年公益法人化の手續きはじめる。それは単に形態を変えるだけに留まらないうで、この機会に今後の中長期に亘ってYMCA全体のオペレーションを見直すチャンスとしたいと願っている。その方向について私の考えの骨格を三ポイント示して皆様の批判をいただきたい。

一、シニアの貴重な知恵と経験を尊重しつつも、創造力と逞しいエネルギーをもつ若い方々に意思決定機関である評議員会に積極的に参加していただく。執行機関である理事会は、スタッフと会員理事が協働作業を行う。会員理事に財務・広報等の担当制を設ける。

二、財政基盤の強化を図るため現行のプログラム全体を見直す。その為仕分け作業を行いYMCAがミッションとすべきこと、それを支える事業を明確にする。又、ファンド・ドewェロップメント(募金)のやり方を研究し具体的に実行する。募金と裏腹である広報についても再検討する。

三、YMCA活動の原点は会員活動であるとの認識を再確認し、任意団体としてのYMCAの組織を見直すと共に会員ムーヴメントの活性化を図る。今年には更に忙しい年になりそうであるが、パウロの言葉「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると取るに足りない」とわたしはおもいます。」(ロマ書八―十八)を思い起こし、皆で努力したい。

## 患難から希望へ

総主事  
廣田光司



2010年、新しい年が始まりました。2009年は東京YMCAにとり実にいろいろなことがあり、まさに患難(困難にあつて悩むこと)の年であったといえましょう。そんな中でも会員の皆様の熱い思いと神様の導きによって一年を過ごし、こうして新しい年を迎えられます恵みを感じたいと思います。

毎年、年末に「今年の漢字」が選ばれますが、昨年は「新」という字でした。解説には「さまざまに新しいことに期待し希望を抱いた一年」とありました。政権交代の新内閣への期待や新薬への期待があるとの事です。ちなみに2008年は「変」、2007年は「偽」という字が取り上げられました。必ずしも明るいイメージではありませんでした。

私たちは新しいことに期待します。「新しいいぶどう酒は新しい皮袋に入れる」と聖書にはあります。「新」という字は希望の字です。前に向かって行くという思想が感じられます。今、世の中は希望へと向かっているのでしょうか。客観的にまたは評論家的に「うでしようか」などといっている時ではありません。私たちが自身が神様の思いの中で希望へと向かっていることを求められているのだと思えます。

患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すと聖書は教えています。今は患難のときでも必ず信仰が希望へと向かわせてくれることを信じて、今年も希望の年を歩んで行きたいと思えます。会員の皆様の清い志しと連帯への強い意志を信じ、またYMCAへの熱い思いを期待しつつ新年の御挨拶を申し上げます。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家庭の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

# 強い志と希望をもって 明るい未来へ歩みます

## 国際協力―日本への期待、東京Yへの期待



山田公平

アジア・太平洋YMCA同盟総主事

日本のYMCAは、世界の中でも大きな存在である。東京YMCAでもバンングラデシュ、中国、アメリカ、それに韓国や台湾との関係など、長い期間にわたる交流と貢献をしてきた。日本の貢献は、プロジェクト型の国際協力というより、長い関係の中で人と人のつながりを重視する交流型の協力である。長くつながり続ける、兄弟のような付き合いをして、互いに支えあう関係を作り上げてきたのが特徴である。

今年1月にはニュージーランドで地球の気候変動に関して、YMCAのあり方を問うワークショップが行われた。一人ひとりが地球に対して、自分たちの子や孫世代、長い将来にわたって責任ある行動を国内で、世界で行う必要があることが確認された。その上で各YMCAが、また個人々が、すべきこと、できることを考え実行していく。そのような考えをしっかりと持ち、それぞれの生活で、YMCAで、日本全体で、世界で一緒に考える時代が来ている。

多くの人が世界中の平和を願い、困難を克服するのに協力したいと考えている。しかし、それを行うのは一部のNGOであり、YMCAの中でも実際には一部のスタッフやボランティアである。世界はみんなの関心事であつても「国際協力」は一部の関心事というのが現実。独自の企画で外国を訪ね歩く旅をしたり、数ヶ月以上、外国に滞在する経験を持つ人は少ない。ひとつの国について深く知り、そこで得た感覚は多分多くの国でも通用する力につながる。アジアの現実をその現場でじっくり見て感じ、そこから出てくる行動がこれからの世界に必要となってくる。

世界に仲間を持つYMCAが、そのネットワークと信頼関係を活かして若い人材を育てることがこれからのYMCAの使命ではないかと考えている。香港、中国、シンガポール、マレーシア、韓国など、多くの国で、世界的な視野を持って生きる人材の養成にも力を入れている。外から日本を見てみると国際社会を生きる人材養成という部分で遅れを取っているように感じる。世界の人口移動(移民や外国人労働)が拡大している中で、日本企業の製品が世界あちこちで作られ、売られている中で、世界のどこでも通用できる人材が国内外で求められてくる時代である。

「国際交流」「国際協力」という時代から、どこの国でも人々と共に考え貢献することや、多文化社会を作り上げる人材の養成が求められている。今日、そのためにYMCAは何をするべきかという視点が必要になってくる。スタッフの採用や養成のあり方を考え、また、多くの若い人たちが持つ国際への関心を、海外YMCAとのネットワークを通し、生かしていくことが必要なのではないか。東京YMCAでも、そのような人材を生み出すために本格的に歩みだされることを期待している。

## 赤三角

貴方には、家庭や学校、職場の他に自分の居場所がありますか？ 東京YMCAのlibbyは、様々な問題を抱える子どもたちが、ありのままにいられる居場所を提供するプログラムです。libbyの周りには、子どもたちを支える活動に共感した、多くのサポーターが集っています。▼子どもたちと一緒に遊んだりキャンプに参加するリーダーたち、libbyに関わったOB、OGのみならず、libby支援を目的に集まったワイズメンはクラブを作り、サポートの輪は広がっています。市民と企業を巻き込んだlibbyチャリティーコンサートは11回目を迎え、今年も2月27日に早稲田春仕園スコットホールで行われます。libbyは子どもたちの居場所であるだけでなく、libbyに関わる人達にも様々な影響を与えているのです。▼ふと気づけば、居場所を探しているのはなにも子どもたちばかりではないのです。大人だってみんな自分を認めてくれる仲間や活躍の場があれば嬉しいですよね。YMCAを通じて出会った若いリーダーたちからはパワーを貰い、先輩会員のみならずからは知識と経験を分けたいと。年輪所屬を超えて付き合える仲間と、共有する時間を得た事が何よりの宝であり、私たちがみんなの居場所なのです。今年もYMCAで素敵な時を過ごせますように。

(東京たんぽぽYサービスクラブ会長 小原史奈子)